

1. 調査目的等

小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てる。

2. 学校ごとの指標

○学校全体及び各学年が標準偏差値「50」に到達する。

3. 指標にむけての取組

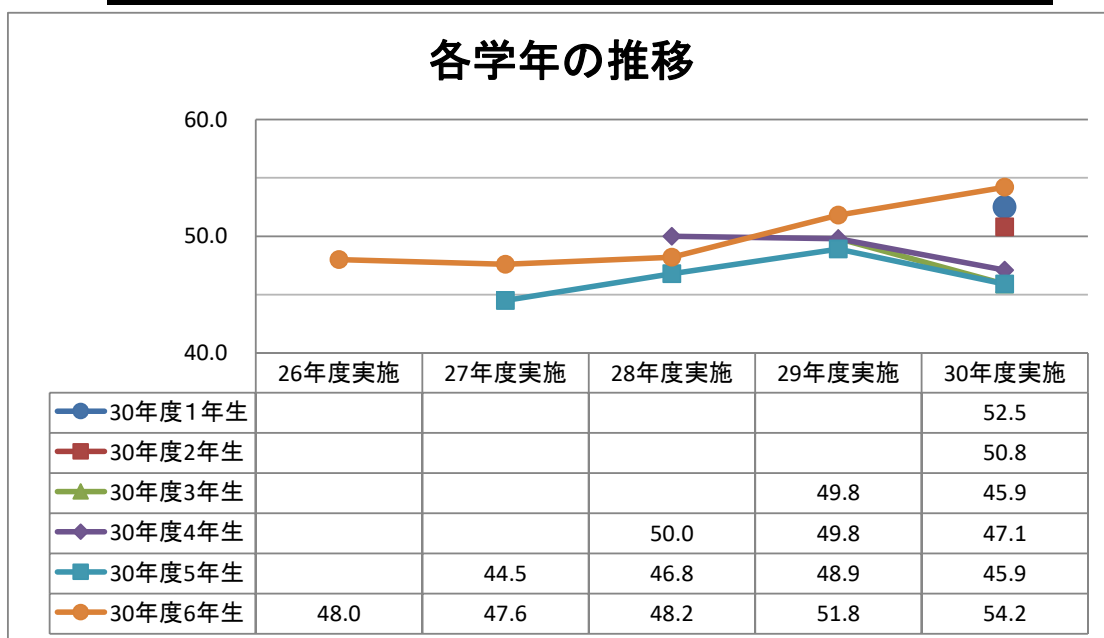
- ① 授業の充実の推進
 - 1単位時間内に必ず書く活動を位置づけた授業づくりを行う。
- ② 課題克服プリント(NRT問題・国語科・算数科)の実施
 - 朝活動の時間を活用し、専科教員の入り込みによる複数体制で個の課題に応じた指導にあたる。
- ③ 漢字コンクール、漢字検定の取組

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
本校(A)	49.7	47.4	47.6	50.1	49.7
嘉麻市(B)	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4
(A) - (B)	-0.3	-3.4	-3.1	-1.4	-1.7
標準偏差値との差 (A) - (50)	-0.3	-2.6	-2.4	0.1	-0.3

各学年の推移



5. 各学校における分析

○国語の「書く」領域においては、全国通過率に達しており、3年間の主題研修の成果が見られた。
○課題対応プリントは年間を通して、朝活動の時間に実施してきたが、定期的な評価・改善が不十分であった。国語においては「読む」、「言語」の力は－7%と低く、年間を通じた徹底した取組が必要になる。
算数の「図形」領域は全国通過率に達しているが、「数と計算(5%)」、「量と測定(2%)」、「数量関係(8%)」の領域が達していない。とくに「数と計算」領域では、位取りや整数・小数・分数の乗法、除法の問題の反復・徹底を行う必要がある。
○毎学期、漢字コンクールや漢字検定を実施したり、高学年(4～6年生)に全漢字のドリルを使わせたりするなど、年間を通して漢字力を付ける取組を行ったが、読み(80%)に対し書き(58%)が定着していない。日常の日記や作文で漢字を使う機会を増やしたり、国語・漢字辞典を活用させたりして、語彙力を増やす必要がある。

6. 各学校における今後の取組

- ① 授業づくり
 - 各教科における「書く(かく)活動」の位置付け
 - 算数科における見通しをもたせ、主体的に「考える力」をつける学習過程の徹底
 - 算数科重点単元における分割、習熟度別学習における個別指導の徹底
- ② 学習基盤づくり
 - 課題克服プリント(朝の活動の時間)、算数計算プリントの実施、徹底
 - 2学期末に集中した課題、反復練習の徹底
 - 漢字コンクール(学期に1回)・漢字検定(年1回)の実施、語彙力を増やす国語・漢字辞典の活用
- ③ 教員の指導力の向上
 - 教員と児童の授業アンケートにおける評価の共有
 - 主題研修における模擬授業、授業公開の実施
- ④ 家庭学習の習慣化
 - 保護者と連携した学期ごとの家庭学習振り返り週間の設定
 - 各学年の自学ノートの推進
- ⑤ その他
 - 未来塾など外部人材の活用

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

- ◆嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く(かく)活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施する。また、学力向上推進員による講師を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。
- ◆短期スパンでの検証改善サイクルを推進する。そのために、学力向上推進委員会を機能させる指導助言や支援を行う。